

# 市民文芸

## 短歌

阿南市春季短歌誌上大会 選

特選 濡れ帰るわれの背を亡夫あらばふいて呉  
れたり掻き抱くごと 荒瀬左知子

特選・入選 冷凍の干柿見つけかぶりつく帰省  
の吾子の明るき笑顔 松江 敬子

特選 紅梅の八重が可憐に香りおる春の使者か  
と庭に佇み 佐野 智子

特選 三年間みんな本当にありがとうまた五年  
後に乾杯するで 山川 徹也

特選 鬼滅ファン何の呼吸が使いたい？寝れば  
使える無の呼吸 神戸 翔太

特選・入選 啓蟄にやる気の虫が動きだし生え  
放題の庭の草抜く 山本 賀代

特選 動かざる母のミシンは捨てがたく色とり  
どりの端切れと語らふ 吉田 文恵

入選 金柑を噛めば祖母を思い出すお前は  
様と笑ったあの日 陶久 陽子

入選 帰宅してコタツでコックリ二年生過密の  
学びコロナの後れ 森 マスミ

入選 姑を「うちのばーちゃん」と言う彼女よ  
き嫁ならむ手首の太し 佐野 幸子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

愛用の陶枕胼胝の老尼僧

奥田 蒼朗

屋顔の咲きひろがれる雨の浜

田中 栄子

三輪山に向かい三つの茅の輪かな

浜田百合子

時鳥声近くなり遠くなり

吉崎 晶子

公園の池いく度も燕反る

富永 恵女

荒梅雨に閉じ込められて聞く演歌

張本 雅宣

葉桜や湖面に影を揺らしたる

平 いち子

万緑の日々子の帰り待ち遠し

瀬藤 豊子

梅雨さなか色とりどりの傘の花

鳥海 勇二

母の日や猫も家族もおお燥ぎ

藤崎 恵竹

## 川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

世の父は娘にだけは甘すぎる

滝川 太郎

一つでも若く見せたく派手を着る

二階千代美

派手な服不思議に足が軽くなる

原 公美子

贅肉が背中掻く手の邪魔をする

野口 吾朗

使い捨てとても気になる戦中派

野村 敏子

大切な事はマスクを外し言う

西田 修身

手を洗い心ゆつくり本開く

田上 鶴子

### 一般応募

丁寧におまけを生きる箸二膳

島尾美津子

草抜きも布団も干して帰省待つ

武田 敏子

紫陽花に遊んでもらうかたつむり

仁井 信子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

西光寺阿波公方の墓を訪う

折野 博子

那川北岸古津邊

那川の北岸 古津の辺

蕭寂無人風颯然

蕭寂 人無く 風颯然

累代公方蘇碑字

累代公方の蘇碑の字

纏綿青史憶當年

纏綿たる青史 当年を憶う

### 夏日看瀑

大野シゲ子

避暑求涼溪澗邊

暑を避け涼を求む 溪澗の辺

鬱蒼樹蔭仰飛泉

鬱蒼たる樹蔭 飛泉を仰ぐ

百尺水聲似雷鼓

百尺の水声 雷鼓の似く

虹霓五彩映煙懸

虹霓五彩 煙に映じて懸る

### 偶感

荒瀬左知子

作詩晚學把書看

作詩 晚学 書を把りて看る

倚几菲才霜髮寒

几に倚る菲才 霜髮寒し

借問人生所向

借問す人生 何の向かう所ぞ

苦吟恥己思無端

苦吟 己に恥じて 思端無し



【ハウスみかん】

本市は、西日本有数のハウスみかん銘産地。摘果や枝つりなど丁寧な環境づくりを行い、7～8月に出荷時期を迎えます。露地みかんに比べやや小玉ですが、糖度が高く酸味が適度。お盆の贈答用として重宝されています。